

1. 宿泊活動ができない中での5泊6日の細目履修について

基本は、隊長が「どのようにでも」考査、認証できる。

ただし、今回の特別措置は、「省略・免除」ではなく、できることを前提にすることを確認していただきたい。そのうえで「できないこと」を明確にして、できないことは、形を変えてできるようにすることを可能にしたものである。

スカウトの置かれた環境に合わせて、「可能性をつくること」が、隊長に与えられた「権限」であり、「責務」であることを確認いただきたい。

Q. 夏休み、冬休みがそれぞれ短縮される可能性もあり、学校スケジュールの見通しがつかないことが長期キャンプ計画を遅らせる要因にもなっている。**1級への進級の遅れが予想されるが、県連盟で特別な措置を講じても良いか。**

A. 基本は隊指導者が柔軟に対応できるように、権限を付与していただきたい。しかし、そのような質問が出ることも予想されるため、**県連盟の回答として準備いただくことは差し支えない**。新たな細目として指定することのないようにご配慮いただきたい。

2. 後日実施の前提がくつがえる際の履修認定について

特段の不誠実なものがない限り認定が撤回されるものではない。

「後日実施することを前提」に延長している活動が可能になるまでの期間が地域により異なること、スカウトの将来的な環境の変化により後日実施の前提が覆ることも考えられる。

しかし、実施できなかった場合においては、細目の履修を取り消すのではなく、その他の方法により努力したことを認め、また実施できる日までにスキルや実施計画の向上を促すことで、スカウトのモチベーションの維持、活動の継続が可能となると考える。

環境要因による責任をスカウトに転嫁することのないよう、ご支援いただきたい。

3. 各地域における特別措置の設定や期限の再延長について

今後の状況に応じて判断されるべき。

6月現在では全国同一の判断は難しく、隊、および県連盟における解除、または状況に応じた再設置は、地域ごとの状況に応じて判断していただくことが最善と考える。

今回実施する富士の特別細目および申請期限の再延長については、全国的な状況を鑑みて、県連盟コミッショナーを通じた情報を元に日本連盟コミッショナーにより判断を行う。

スカウトが安心して活動できる環境を整えながら、全国の情報共有を進めていきたい。

4. 2020年全国大会におけるプログラム委員会のテーマ集会での意見

| No | 質問内容 | 回答 |
|----|--|---|
| 1 | WEB ツールの使用で活動を検討しているが、すべてのスカウトの家庭に環境が整っているわけではないため実行に移せていない。また、BS 課程では、小学生スカウトもいるため、スカウトの保護者に協力依頼をしなければならない。その場合、CS 課程との区別化が難しい。 | 班制度を活用することでCS 課程との区別は可能です。班の一員として活動することがBS 課程の活動に基本となりますので、班長を中心として活動できる体制を整備することが指導者の責務となります。保護者の方とコミュニケーションをとられ、班活動と距離をとって見守ってほしいことをお伝えください。 |
| 2 | WEB ツールによる活動に対して、保護者のニーズが高いとは言えない。特に BVS 世代から WEB 環境での会議をさせたくないとの意見もかなりある。また、WEB 環境を保護者に強いるのか。自治体によっては小中学生の携帯電話やスマートホンなどの所有を基本的に禁止しているところもあります。 | 利用するルールを活用することで対応可能と思います。スカウト活動の中心となる部分は「ちかい」と「おきて」の実践です。どんな便利なツールといっても良い面と悪い面があります。Web 活用の良い面に焦点を当て活動を止めないことを認識してルールを持って対応するとよいと思います。 |
| 3 | 自粛期間中の進歩課目への特例措置やおうちスカウティングの取り組みなど、現状ではそのやり方しかできないと思うが、スカウト教育法との関係をしっかりと整理しておかなければ、今後何でもありになってしまいかねないと危惧している。 | スカウト教育法を活用することで何でもありになることはございません。Web 活用は一つの展開方法で、その中でも班制度と進歩制度を意識することでスカウトらしい活動となるでしょう。今こそ基本に立ち返り、特に「ちかい」と「おきて」の実践を意識して、With コロナの活動を展開していただきたいです。 |
| 4 | ほとんどのスキルの習得は個人でできる。確かにその通りと思います。しかし、班長訓練→班集会という流れで班長から他のスカウトにスキルを指導する、本来はこれが大切だと思います。Web 会議システムも大人が介在しなければ開催不可能で、本来スカウトだけ行う班集会とは異なるものであり、あくまで代替手段に過ぎないと考えます。 | Web 会議の導入は、大人の介在が必要な部分はあると思いますが、あくまでも通信技術は環境とスキルです。これらを活用することはスカウトの自発性に委ねることは可能と考えます。今こそ指導者としては十分な安全に配慮したルールと環境づくりを行い、スカウトの手に活動を委ねられる環境を整えるときです。そしてスカウトたちに班運営を全面的に委ねましょう。 |

| No | 質問内容 | 回答 |
|----|--|--|
| 5 | 先ほどの質問にありませんでしたが、うちはオンラインの否定派と肯定派があり、団会議ができていません。肯定派がオンライン隊集会をしている状況です。日本連盟から強くオンラインも使うことを通達してほしいです。 | Web環境やICTは新しいスキルです。何事にも良い面と悪い面があります。その点を理解してしっかりと安全に配慮したルール作りは必要でしょう。そのうえで活用できるWeb環境やICTについては取り入れることが肝要でしょう。 |
| 7 | 地区や県連盟での進級面接を実施したいと考えている。 | 進級面接についてはWeb環境さえ整えば十分可能でしょう。Skype、Zoom、Google meetなどツールは多くあります。使いやすいツールを選択し、利用手順を共有して、まずは使い始めて、改善しながら運用方法を定めてほしいと思います。 |
| 8 | web会議のため、指導者の話した事の理解度が表情だけで推し量る事が難しい。 | 活動をできるだけスカウトの手に委ねることでコミュニケーションがスムーズにとれるようになると思います。まずは上級班長とのコミュニケーションをしっかりとって相互理解を深めましょう。そのうえで上級班長に班長会議を通じて班長達の理解を深めていくとよいと思います。スカウト同士はWeb環境でもコミュニケーションを十分にとってくれると思います。 |
| 9 | 個人支援がやはり主になりますか？ビーバー、カブ、ベンチャーでオンライン集会をしましたが、中々組、グループで考えるのは難しい印象でしたが。 | スカウト同士で自由に時間を与えることで仲の良いグループであれば考えることは可能になってくると思います。仲の良いグループの環境を整えるにはWeb環境上でグループゲームなど多く実施して環境に慣れるとともにスカウト同士の仲を深めることが大切になると思います。 |
| 10 | VS隊のスカウトです。LINEでスカウトフォーラムについて議論を進めています！ | 素晴らしいと思います。ぜひフォーラムからアクティブな活動へと展開してもらいたいと思います。他団へも活動の輪を広げることも可能です。Web環境は平時でも十分に活用できるツールと考えます。特にVS部門のスカウトにとっては活動の制限を大きく打開できる可能性を秘めています。今後の活動につなげてください。 |

以上